

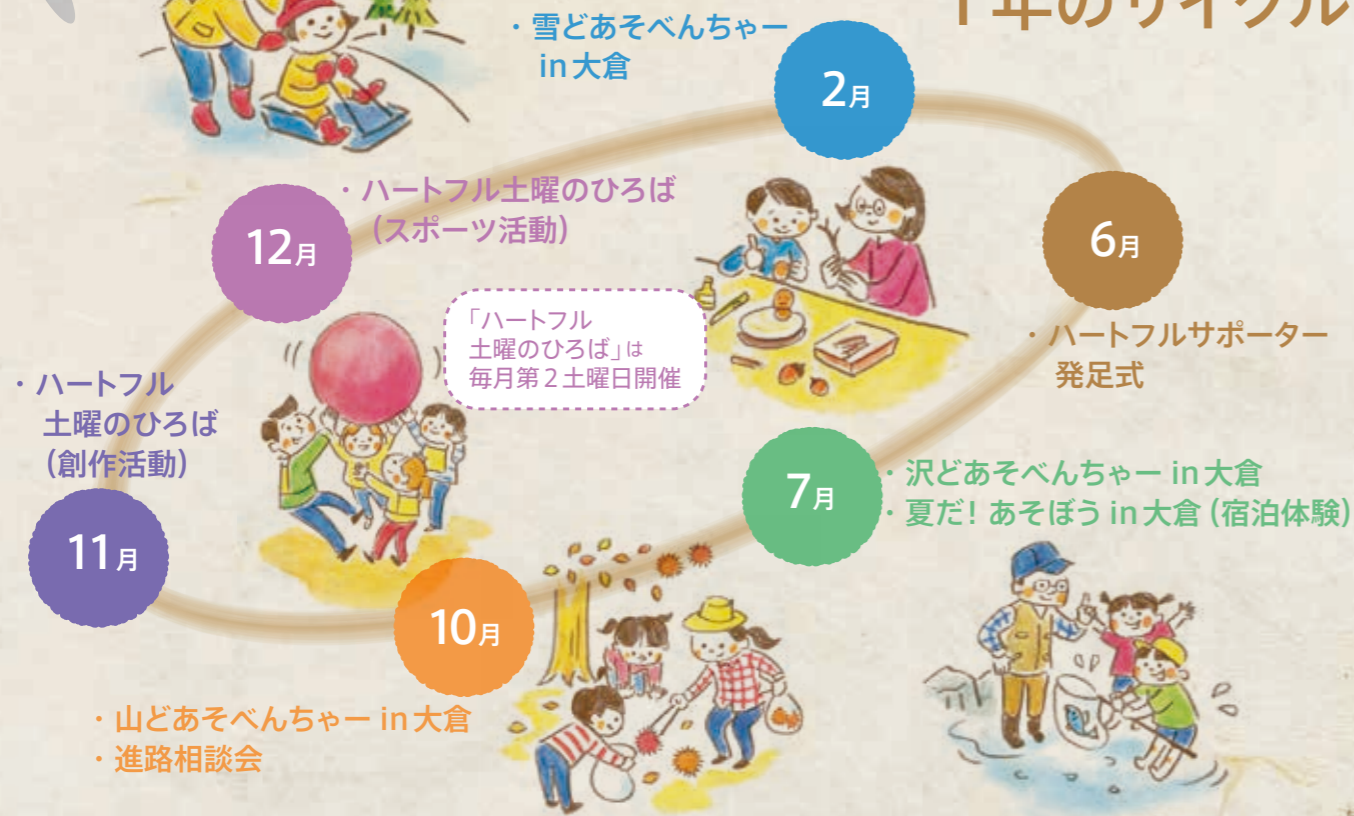
仙台市適応支援センター「児遊の杜」  
ハートフルサポーター事業 10年のあゆみ

# ともにあゆむ

発行：宮城教育大学 教育復興支援センター



## ハートフルサポーター 1年のサイクル



## もくじ

### 3ページ 1年のサイクル

### 4ページ 座談会

教員の立場を離れて触れ合い 子どもも自分も楽しめる空間

### 12ページ インタビュー

大自然がもたらす解放感が子どもたちの緊張をほぐす  
有馬 玄康 さん 中野小学校教頭

「おばちゃん、美味しい!」 その笑顔に癒された10年  
狩野 敏江 さん 長町南小学校教諭/食を支える貢献者

ともに一夜を過ごした経験が大人も子どもも成長させる  
伏見 滋 さん 泉岳少年自然の家 指導係長

子どもの変化を目の当たりに ハートフルだからこそその経験  
渡辺 美幸 さん 若林小学校教諭

見逃していた大切なことに気づかせてくれる貴重な場  
五十嵐 淑子 さん 旭丘小学校教諭/教育相談活動支援リーダー

踏み出す瞬間は人それぞれ 1人ひとりに合った手助けを  
阿部 謙 さん 泉松陵小学校教諭

校種の違う小学生との接点が教えてくれた大切なこと  
小野 耕一 さん 中山中学校教諭

### 22ページ 活動紹介

### 24ページ 資料編

### 28ページ 事業紹介

平成15年7月に発足した仙台市の教職員有志によるボランティア団体「ハートフルサポーター」が10年の節目を迎えました。現在200名を超える先生方の登録があり、不登校の児童生徒とご家族への支援活動に取り組まれているところです。発足当初から仙台市不登校支援ネットワークを通してかかわらせていただいた者の1人として、心から敬意を表します。

先生方が職場を離れたボランティアとして不登校支援の活動に取り組んでくださっている姿は、将来教師を目指す大学生たちにも貴重な示唆を与えてくれます。宮城教育大学では教員や学生ボランティアによる学校支援活動を行っています。教育復興支援センターでも学校や児童生徒に対する多彩な支援の取り組みを行っているところです。これからも「ハートフルサポーター」の先生方と連携・協力しながら息長く歩んでいければと思っております。

宮城教育大学教職大学院 教授(臨床心理士)  
佐藤 静

教員の立場を離れて触れ合い  
子どもも自分も楽しめる空間

ハートフルサポーターが発足して10年。これまでにさまざまな試行錯誤を重ねながら、自然体験活動支援「あそべんちゃー」と教育相談支援「ハートフル土曜のひろば」を軸に活動を展開してきた。仙台市の教員だからこそ経験できるこの活動を支えてきたサポーターたちは、いまどんな思いを抱いているのか。この10年を振り返るとともに、次代を担う若い世代の教員たちにメッセージを寄せてもらった。



**高橋智男・適応指導センター所長** まずは自己紹介を兼ねて、皆さんがどんなかたちでハートフルサポーターにかかわってきたのかお聞かせください。



高橋 智男さん  
適応指導センター 所長

**今野隆・長町中学校教頭** 平成15年度にハートフルサポーターが発足する2年ほど前、学年主任をしていた時期にある不登校の子とかかわり、それを機



今野 隆さん  
長町中学校 教頭

に適応指導センター「児遊の杜」で仙台市教育委員会が実施する「児童生徒理解のための機関研修」を受けたんです。そこから「児遊の杜」とつながりが深くなり、ハートフルが発足すると同時に活動に参加しました。

**須長田美・富沢中学校教諭** 平成18年度に児童相談所へ異動になったときに、

高橋所長から声をかけていただいたのがきっかけでした。児童相談所にたまたまハートフルサポーターをしている先生がいて、その方にハートフルの話聞いて関心を持ったんです。試しに行ってみたのが、自然体験活動「あそべんちゃー」でした。それが予想以上に楽しくて、教育相談支援「ハートフル土曜のひろば」にも参加するようになりました。



須長 田美さん  
富沢中学校 教諭

ながら、大倉地区での自然体験活動を支援。無我夢中でしたが、私自身とても楽しませてくれました。

**安藤仁・愛宕中学校教頭** 平成20年度から2年間、「児遊の杜」の指導主事としてハートフルサポーターの活動にたずさわりました。それ以前にも、担任したクラスに不登校の子どもがいて「児遊の杜」にお世話になったこともありましたが、勤務して初めて知ったことが多く、大変勉強になりました。



安藤 仁さん  
愛宕中学校 教頭

**三浦敏光・泉松陵小学校教頭** 発足と同時にサポーターに登録。初めは年1回程度の参加でしたが、平成20年度に大倉小学校に赴任してハートフルサポーターの会長に就任したのを機に、活動に深くかかわるようになりました。会長時代の3年間、皆さんに支えられ



三浦 敏光さん  
泉松陵小学校 教頭

**高橋** 平成15年7月のハートフルサポーター発足時には、新聞にも取り上げられました。ここでは、「市内全域の教職員が集まって活動するボランティア団体が発足したのは全国でも初めて」と紹介されています。仙台市内には当時約1100人も不登校児がいたことで、その子どもたちに何とか手を差し伸べなければならぬという気運が、いま以上に強かったと思うんです。そこで、ボランティア活動に意欲のある教員に声をかけ、各自の特技や持ち味

を活かしながら、教員ではなく、1人の人間として子どもたちを支えることを目指して立ち上がったのがハートフルサポーターでした。

**今野** 発足式には教育長も列席し、サポーターになった教員も数多く参加していました。発足式のあとにはサポーターが集まり、今後どんな活動ができるか話し合った記憶があります。

そこで出た企画のひとつが、翌16年2月に初めて開かれた「雪どあそべんちゃー」。当初はまだ知名度が低く、参加する不登校の子どもたちはごくわずか。ほとんどがサポーターとその家族でした。先行きを考えると不安になりましたが、活動を続けていけばいつかきっと不登校の子どもたちも集まってくるに違いないと信じていました。その願いどおり、回を重ねるごとに不登校の子ども参加が増えていきました。

**高橋** 大倉地区での自然体験活動には発足当初から、「情報のおんこ」の皆さん、大倉小の先生や子どもたち、地元の方々が積極的に参加してくれています。そうしたつながりもあって、ハートフルサポーターの会長は、平成17年度から大倉小の教頭に就任していただくようになりました。

**三浦** 大倉小の子どもたちにとって、ハートフルの活動に参加することは、

体験活動は、子どもにとってはもちろんのこと、大人にとっても本当に有意義なものだと思います。

**高橋** そうした大倉の自然のおかげでしようか。遊んでいるうちに子どもたちの表情が変わってくるんですね。

**須長** そうですね。私は冬の活動に毎年参加しているのですが、集合直後は大倉小の子どもに比べて、不登校の子どもははっきりそれとわかるくらい大人しいんです。それが、ひと言ふた言声をかけて会話をしているうちに緊張が解け、雪の滑り台やスノーモービル、スノーシューなんかで遊び始めると、表情がぐっと明るくなり、声もどんどん大きくなっていく。中学生は打ち解けるまで時間がかかりますが、それでも遊び始めるとリラックスして話すようになるんです。

やはり、自然の中で一緒に体を動かすのがいいんでしょうね。それに、私自身も教員ではなく、1人のおばちゃ



人とかかわる機会を増やす意味でも大変有意義なことですし、実際、参加している子どもたちも心から楽しんでいる様子でした。先生たちも毎回楽しみをしていたようで、強制ではないのに積極的に参加してくれました。

地元の方々には本当にお世話になりましたね。大倉地区には子どもたちを地域全体で育てようという懐の深さがあった、保護者や地元の方々子どもたちの活動を全面的にバックアップしてくれるんです。自然体験活動を開催する際にはその都度保護者の方々に参加を呼びかけましたが、時期が近づくと「今年はいつやるの?」と尋ねられるほど楽しみにしてくれています。たし、地元の方々も豚汁の材料の提供や調理の手伝いなど、積極的に協力してくださっていました。

大倉の自然は実に豊かで、四季それぞれの味わいがあるんです。その豊かさを存分に味わえるハートフルの自然

ん、お姉ちゃん、として接することができるので、子どもたちも警戒しないのではないかと思います。

**今野** 中学生でも、雪の上で先生に飛びついて一緒にじゃれ合ったり、転げ回ったりしますからね。学校では考えられない姿ですね。

**須長** そうなんです。スノーシューは1時間くらい山道を歩くんですが、一緒に歩きながら子どもと話すのもまたいいですね。

児童相談所を離れてある中学校に勤めていたころ、こんなことがあったんです。その学校には2年間不登校を続けている男子生徒がいて、「児遊の杜」に通っていると聞いていましたが、会うことは一度もありませんでした。その子がたまたま自然体験活動に参加していて、雪合戦をしたり豚汁や味噌おにぎりを一緒に食べたりしながら、ごく普通に会話をしたんです。その後、別の会で偶然会ったときも、雪合戦をしたときと同じように気軽に言葉を交わしました。ちょうど居合わせた中学校のほかの先生にも、彼は自然に接していた。これもハートフルがきっかけだと思つと、この活動にかかわっていて良かったとしみじみ思いました。

**高橋** 自然体験活動について、学校ではどのように案内しているのでしょうか。

**須長** 不登校の子どもだけでなく、学





校を休みがちな子どもに案内をしますし、各学級でも教室内で掲示してもらったり、担任から直接声をかけてもらったりしています。

**安藤** 子どもの状態によるので一概には言えないのですが、直接案内を渡すこともあれば、スクールカウンセラーや保健の先生を通して声をかけてもらうこともあります。

私も須長先生と同じように、大倉での活動の際に、自分が勤めている学校で、ずっと休んでいる子どもとその親御さんに偶然出会ったことがあるんです。「杜のひろば」に通っている子だったのですが、言葉を交わすうちに徐々にくだけてきてね。それ以降、ときどき学校に来るようになり、ホッとしたのを覚えています。

**三浦** 私が会長をしていた時期に参加者がちょうど100人を超えたのですが、いまや150人に迫る勢いです。参加した子に「来年もまた来てね」と

言うと、ちゃんと約束を守って来てくれる。「約束したから」という理由だけでなく、子どもたち自身の「楽しかった」という記憶がそうさせると思っています。そうやって参加者が増えてきたんでしょうし、その体験が、「児遊の杜」や「杜のひろば」に通っている子どもたちのあいだで口コミで伝わって、広がってきた面もあるのではないのでしょうか。

一度参加した子が、初めての子に「こうやるといいんだよ」と教えている姿を見たり、リーダー役になってほかの子たちを引っ張っている姿を目の当たりにしたりすると、「いいものだなあ」としみじみ思います。

**高橋** 教員に対しては、どんな案内をしているのでしょうか。  
**須長** 自然体験活動については、職員にも開催通知を回覧してその都度参加を呼びかけています。

以前、不登校の子どものことで悩んでいる先生に直接声をかけて、一緒に参加したことがあるんです。そのときはたまたまその不登校の子が参加したこともあって、その子と一緒に過ごすことができるとも良かったと言っていました。中学校の教員は部活動の指導もあって継続して参加するのはなかなか難しいのですが、不登校に関心のある人がいたら直接誘ってみるのもい

いのではないかと思います。

**今野** 一度参加すると次も参加したくなるのは、子どもたちだけではなく、教員も同じでしょうね。私は発足当初からしばらくの間、自然体験活動時に仙台・泉中央駅と大倉ふるさとセンターを往復するバスで案内係を務めていたのですが、あるときこんなことがありました。活動を終えて駅まで送り届けるとき、バスを降りた女の子から「先生もまた来るんでしょう？」と言われたんです。嬉しかったですね。その女の子と次の活動で会ったとき、「また会えたね」と喜び合いました。そんな体験ができるのも、ハートフルならではのようですね。

**安藤** 自然の中で遊んでいるうちに、人間本来の姿に近づいていくんでしょう。それは、子どもたちにとっても私たち教員にとっても、非常にいいことだと思うんです。

**三浦** 「あの地点まで沢を歩く」とか「力又ーの漕ぎ方を覚える」とか、全員が同じ目的に向かって活動するので、自然な会話ができるんですよ。

**須長** 話も弾みますよね。かまくらをつくっているときに、「そっじゃなくて、こうするんだよ」なんて言いながら、教えてくれた子もいて。子どもから教わることも多いんです。

**三浦** 先頭に立って遊んでいる子が、



じつは不登校の子だったりしますから。

「同じ釜の飯を食べた」せいなのか、昼食後はさらに子どもたちの表情が柔らかく、生き生きしてきますよね。

**須長** そうですね。午前中はサポーターから指示することもありますが、午後は子どもたちが遊んでいるのをかたわらで見守っていることも多くなる。それもまたいいんです。

**安藤** ハートフルサポーターの役割はあくまでも、子どもたちが一歩踏み出すきっかけをつくること。子どもたち自身にはもともと力が備わっているの、材料やきっかけさえあれば、それぞれが自分なりに踏み出していくんだと思います。

**高橋** 平成20年度からは、毎月第2土曜日開催する教育相談活動「ハートフル土曜のひろば」も始まりました。

**三浦** 教育相談についての支援は、ハートフル発足当初から行っていきいたいという思いがあり、ようやくスタートで



いがちになるのですが、小学校や高校という校種の違う先生の話を聞いて、視野が広がるような思いをした経験が何度もありました。

**今野** ハートフルの活動で親しくなった中学の先生が同じ校区に赴任してきたおかげで、学校現場でのやり取りがスムーズに行った経験もあります。

**高橋** ハートフルの活動は基本的に、休日に行われています。休日とは言え、多忙な先生たちにサポーターになってもらうのはなかなか難しいと思うのですが、皆さんはどう考えていますか。

**安藤** 体を動かす分疲れることは確かなのですが、気分転換にもなりますし、そこで経験したことが教員としてのやりがいにもつながっていくと思うんです。自分自身がそうですし、参加している皆さんを見ていても本当に楽しんで、うで、「やりたくてやっているんだなあ」と感じています。

**今野** 「何かしてあげなくては」という意識では続かないと思うんです。私自身は、一度会った子どもや親御さん、先生と再会することが参加する大きな動機です。初めて会った人たちとも一緒にいるうちに親しくなり、再会が待ち遠しくなる。ハートフルの活動に参加すると、そういう気分になるんですよ。自分自身が楽しめるんです。「ハートフル土曜のひろば」でも同じことが

きました。初めは参加者が少なかったんです。それでも地道に活動を続けているうちに認知度が少しずつ上がり、創作活動やスポーツを取り入れ始めてからはさらに訪れる子どもが増え、土曜のひろばに来たのをきっかけに、「児童遊の杜」や「杜のひろば」に通い始めた子どもも増えていると聞いています。いまでは通級生の間口としての評価が定着。私自身の経験で言えば、子どもたちが来ない日に、サポーター同士で話をしたり、互いの学校について情報交換したりできたことも有意義でした。

**須長** 平成21年度に1年間通して参加していたのですが、そのときは毎回数人の子どもたちが訪れていました。それでも当番に入った先生たちと話す時間はたっぷりあって、そこで情報交換したことがのちのち役に立つことも多く、本当に勉強になりましたね。

**安藤** 私は中学校の教員なので、どうしても中学3年間のことに意識が向か

言えますね。初めて会った子と遊びながら、距離が近づいているのを感じます。

**三浦** 大倉小の先生たちも本当に楽しんでいましたね。大倉小にいたころは会長だったこともあって、ハートフルの活動をなるべく優先するようにしていました。

**高橋** 発足から10年経ち、現役を退いたサポーターが増えてきたこともあって、退職者も参加できるよう、昨年度にサポーターの規約を改正しました。蓋を開けてみたら、予想以上に退職された方々が参加してくれています。

**須長** そういった経験豊富な先輩方と気さくに話ができるのも、ハートフルならではのですね。

**高橋** 最後に、次代を担う若い先生たちにメッセージをお願いします。

**今野** 私が若いころと比べるといまは研修が多く、授業のほかにも出張やレポート提出などに追われて大変だと思えます。そんな先生たちに勧めたいのが、モデルにしたいと思う先輩を探すこと。先輩の姿や言葉が、迷ったとき、困ったときの救いになるものです。その意味でも、ハートフルサポーターの活動に参加してほしいと思います。

**須長** 学校の中だけでなく、学校の外で出会った人とのかわりが、いまの自分をつくっていると思うんです。さ

まざまな人との出会いが、自分自身の成長につながっていく。ハートフルに参加して、ぜひそのチャンスを見いだしてほしいと思います。

**三浦** ハートフルでは、人とのかわりだけではなく、大倉の自然の中で羽を伸ばしたり、親子との接点ができたりと、さまざまな体験をすることができます。日常を離れてホッとひと息つく場にもなると思うので、一度参加してみてほしいですね。

**安藤** 学校の外で不登校の子どもたちとつき合っていると、長い期間で子どもたちの成長を捉えられるように思います。私自身、ハートフルにかかわるようになってから、10年くらい先を見て子どもたちのことを考えられるようになりました。そうすると、彼らも自分自身も楽になるんです。大倉に行けば、自然の中で思い切り体を動かすことも、美味しいものを食べることもできますしね。それから、「ハートフル土曜のひろば」で子どもたちとかかわることで、子どもたちの優しさを感じ取ることができます。それに、何となく、先生方と情報交換ができることがいいですね。ぜひ参加して楽しんでほしいと思います。

**高橋** 本日はありがとうございました。

## 大自然がもたらす解放感が子どもたちの緊張をほぐす

ハートフルサポーターの自然体験活動に欠かせないのが、泉岳少年自然の家の協力。その道筋をつくった有馬玄康さんは、「自然の効果は絶大」と太鼓判を押す。



有馬 玄康 さん  
中野小学校教頭

ハートフルサポーターには平成15年度の発足当初からかわってきました。初めて開催された自然体験活動「雪どあそべんちゃー」に参加したところ、予想以上に楽しかったんですね。横手出身の先生に「横手式かまくら」のつくり方を教えてもらい、みんな汗だくになって仕上げた記憶があります。

それから2か月後の翌16年度、泉岳少年自然の家へ赴任。年が明けて迎え



た2回目の雪どあそべんちゃーに、自然の家から、そりや和かんじき、スノーシューといった雪遊びに使えるような道具を借りて持っていました。

最近ではもう考えられないのですが、当時はまだ大倉地区の積雪量も多く、大倉小学校に隣接する三角山公園でそり遊びを楽しむことができたんです。浮き輪状のそりにうっ伏せになって乗り、山の上から70〜80mくらい一気に滑り降りる。みんな大はしゃぎで、滑っては登り滑っては登りを繰り返していました。和かんじきには、地元の方々がすぐ反応してくれましたね。昔とった杵柄」とばかりに装着の仕方を教えてくれ、子どもたちもすぐに馴染んで楽しんでいました。

このときからですね。自然の家がハートフルの自然体験活動に物品を貸し出すようになったのは。自然の家でも、自らの活動についてもっと発信しようという意識が高まっていた時期だったので、タイミングがうまく合致したんだと思います。

以来、自然の家にはずっと支援してもらっています。物品の貸し出しはもちろんのこと、自然の家に勤務する社会教育主任が私の役割を引き継いでくれていますし、彼らが学校現場に戻ってからでも、自然の家でハートフルにかかわった経験を活かして活動を続けている。ハートフルと自然の家をつなぐことができ、本当に良かったと思います。

自然の家に勤務しているころは週末勤務が多く、冬の活動にたずさわることしかできなかったのですが、学校現場に戻ってからは夏の活動にも参加す



るようになりました。平成22年度からは夏の「沢どあそべんちゃー」の運営担当になり、初めの年はスイカ割りの司会進行も務めました。私は「この子是不登校の子なのか、そうじゃないのか」という先入観はまったく持たず、「どこから来たの?」「名前は何?」といった調子で、1人ひとりに声をかけていったんです。子どもたちも自然に答えてくれて、まわりの声援も手伝って大いに盛り上がりました。

あとで聞いたところ、中にはひと言も口をきいたことのない子がいたそうなんです。やはり、大自然がもたらす解放感が子どもたちの緊張をほぐしてくれるんでしょうね。自然の効果はそのくらい絶大なんです。

不登校になる理由は人それぞれ。本人の精神状態だけでなく、家族の問題が複雑に絡み合っている場合もあります。深刻な状況に陥らないうち、本人が完全に心を閉ざしてしまわないうちに、ぜひ一度この自然体験活動に参加してみてくださいね。個人差はあっても、プラスの影響は必ずあるはずですから。それは私たちサポーターにも言えること。若い先生たちにもっと参加してもらって、実感してほしいと思います。

## 「おばちゃん、美味しい!」 その笑顔に癒された10年

自然体験活動「あそべんちゃー」で振るまわれるあつあつの豚汁。140人分もの豚汁づくり腕を振るう狩野敏江さんは、「食」を切り口に活動を支える立役者だ。

平成16年の2月に初めて「あそべんちゃー」が開催されて以来、秋冬の活動時に豚汁をつくり続けてきました。

あそべんちゃーのときの私は、先生じゃなくておばちゃん(笑)。子どもたちから「おばちゃん、美味しい!」「おばちゃん、お替わりちょうだい!」と言われるのも嬉しくて。それに、豚汁を食べたりつくったりする子ども



たちの目が輝くのを見ると、次はもっと喜ばせたいと思って張り切っちゃってますよね。

私がハートフルとかかわりを持つようになったそもそものきっかけは、息子が中学2年生だったころ、2か月ほど教室に入れず「保健室登校」をしたことでした。毎朝、必死に学校へ向かうとする息子を送り出すのが辛くてね。教員を辞めて息子に付き添おうと思いつめるほど悩みました。

そんなとき、適応指導センター「児童遊の杜」の「親の会」に参加してみたんです。参加者の方々は「必ず笑える日が来るから」と、笑顔で勇気づけてくださったんです。何年も不登校を続けているお子さんを持つ方ばかりなのに、皆さん本当に明るいですよね。その笑顔にどれだけ励まされたことか。だからハートフルサポーターになったとき、何があっても子どもたちには笑顔で接しようと思ったんです。

きました。ある男子中学生は、参加者全員の前で手を挙げてこう言ったんです。「僕はもうすぐ卒業するので来年から参加できなくなるけど、豚汁が美味しくて、それが楽しみで毎年来ていました」と。みんなの注目を浴びながら話すなんて相当勇気がいったでしょうに……。嬉しかったですね。

2人の女子中学生のことも忘れられません。家族以外の人間が近づくのをむいてうなるほど人嫌いの我が家の愛犬が、驚いたことに、尻尾を振りながら中学2年生の女の子2人に近寄っていったことがあったんです。2人は「そうなの。きみは小太郎くんって言うの」と、やさしく頭を撫でていました。

そこで思い切って、野菜の下ごしらえを手伝ってもらおうと声をかけてみたら「と言って私についてきてくれませんでした。いつもは引っ込み思案でほとんどしゃべらない子たちなんです。それなのに「美味しいのができるといいね」なんて言葉を交わしながら、3人で野菜を切って豚汁を完成させました。自分がつくった思いがあるからでしょうね。みんなが「旨い、旨い」と



お替わりするのも嬉しかったようで、器に盛るのも後片づけも、その2人が一生懸命やってくれました。そうした場面に遭遇するたび、この活動にたずさわること自分自身が癒されているんだなと感じます。いまは1人でも多くの若い先生たちに、この活動に参加して私のような経験をしてほしいと思っています。子どもたちは話したがっているんです。聞いてもらいたいです。どうか、子どもたちが肩の力を抜いて向き合える良き理解者になってほしい。そう願っています。

狩野 敏江 さん

長町南小学校教諭/  
食を支える貢献者



## ともに一夜を過ごした経験が 大人も子どもも成長させる

平成23年度に始まった夏の宿泊体験活動。それを支える伏見滋さんは、「テントに1泊するだけで大人も子どもも成長する。翌朝の表情が違います」と話す。



伏見 滋 さん  
泉岳少年自然の家 指導係長

子どもの将来に夢を膨らませている親にとって、その子が不登校になることほど辛いことはないと思います。子どもも辛いのですが、親も地獄のような苦しみを味わうんですね。そんな人たちに寄り添いたい。そう思ったのが、私が教員をめざすきっかけでした。

ですから、適応指導センター「児童遊の杜」が開所したときは本当に嬉しかった。次の年の7月には、仙台市教職員のボランティア団体「ハートフルサポーター」も発足。いったいどれだけの人が



救われることになるんだろう、と胸が熱くなったのを覚えています。それから10年。6年前に泉岳少年自然の家に異動してから自然体験活動を中心に支援し、夏の宿泊体験がスタートしてからは宿泊体験活動全般をサポートするようになりました。宿泊体験の際に心がけているのは、できるだけ手を出さないこと。たとえば、キャンプファイヤーでは照明そのものを用意せず、照明に使えるような枝を周辺に転がしておいて、子どもたちに見つけさせるよう演出しています。ところが実際にキャンプファイヤーが始まると、そんな演出をはるかに超えた、何とも言えない満たされた雰囲気包まれるんです。その状態のままテントで一夜を過ごした子どもたちの表情は、前日とはまるで違っている。子どもだけではなく、大人もそうなんです。ここ数年、若い先生が現場で活躍する姿が増えています。そんな若い先生方にこそ、この宿泊体験にぜひ参加してもらいたい。そう思っています。

## 子どもの変化を目の当たりに ハートフルだからこそその経験

不登校の子どもが、自然の中で思い切りはしゃぐ姿を目の当たりにする。渡辺さんは「そんな経験ができるのは、ハートフルだからこそ」と話す。



渡辺 美幸 さん  
若林小学校教諭

サポーターになって5年になります。実は、ハートフルサポーターが発足した年から6年間、適応指導センター「児童遊の杜」で教育相談員として働いていた関係で、ハートフルの活動にずっと関心を抱いていたんです。

教員になってすぐサポーターに登録したのですが、本格的に参加し始めたのは昨年度。担任するクラスの子が、夏休みが明けて学校に来なくなったのがきっかけでした。人との交流を極度に避けるこだわりの強い子で、しばらくは家庭訪問したりお母さんと電話やメールでやり取りしたりして様子見を



続けました。その後、「児童遊の杜」に通い始めたので、試しに自然体験活動の栗拾いに誘ったところ、参加するという答えが返ってきたんです。当日は、序盤こそ思うように栗が見つけられずイライラしていたのですが、ほかの先生が気軽に声をかけてくれるうちに調子が出てきて、お昼を食べるころにはもう元気いっぱい。豚汁は2杯平らげ、仙台味噌おにぎりも「お母さんの分も食べたい」と横取りしていました。よほど楽しかったようで、「冬にもあるけど来る？」と聞いたら、迷いながらも行くことを選択。そんな彼を見つめるお母さんのホッとした表情も忘れられません。母と子の両方にとって、本当に良かったなあと思いました。やはり、大自然の中で人と適度な距離を置きながら、思い切り体を動かすのがいいんでしょうね。そんな変化を目の当たりにできるのも、ハートフルならではの。同年代の若い先生たちにも、余裕があるときだけで構わないので、ぜひ参加してほしいと思います。

## 見逃していた大切なことに 気づかせてくれる貴重な場

教育相談支援「ハートフル土曜のひろば」が開設されて今年で6年目。立ち上げ当初からリーダーとしてこの活動をけん引してきたのが、五十嵐淑子さんだ。



五十嵐 淑子 さん  
旭丘小学校教諭／  
教育相談活動支援リーダー

「ハートフル土曜のひろば」がスタートしたのは、平成20年7月。それ以来、基本的に毎月第2土曜日の午前と午後の2回、適応指導センター「児童の杜」で開催してきました。

もともとは、不登校で不安を抱いている子どもを支援する場、進路に悩みを抱える子どもや親御さんが予約なしで気軽に相談に来られる場として開設



この6年間で、本当にたくさん子どもと出会ってきました。たいていの子は、土曜のひろばに2〜3回来たあと、相談員が1対1で子どもとの勉強や活動を支援する週1回の「児童の杜」に移るか、少人数ならほかの子と一緒に活動できる場合は週5日の適応指導教室「杜のひろば」に通うようになるんです。

3回通えば多いほうで、中には1度しか会わなかった子もいます。そんな子の1人が最近になって、3年ぶりに訪ねてきたんです。2人でビリヤードを楽しみながらおしゃべりしました。もう中学3年生で、学校にも通っていると書いていました。たった1回来ただけなのに、「土曜のひろば」のことを思い出してくれるなんて、とても嬉しかったですね。

「土曜のひろば」を始めて良かったと思うのは、1人の子どもとじっくりかわる時間が持てること。子どもと話しているうちに、自分が勤めている学校の子を思い出してハッとすることがあるんです。「もしかしたら、あの子はこう言いかかったのでは」と。そんなことに思いを巡らすことができるほど、ゆったりした時間が流れている。そこが土曜のひろばのいいところなんです。



したんです。そうした支援は続けているのですが、いまはどちらかと言うと、遊びなどを通して子どもたちとコミュニケーションを図ることが中心になっています。

というのも、開設してみてわかったのですが、ハートフルの活動に参加する子どもたちがいけば必要としているのは、勉強より何より、まずは家族以外の人と安心して触れ合うことができる場なんですよね。土曜のひろばいつでも子どもが中心。子どもに何かをさせなければいけないとか、子どもが何かをしなければいけないとかいう義務感で動く場ではありません。子どもがやりたいことを見守り、支援するのが私たちサポーターの基本。その方針に沿って運営するうちに自然といまのかたちになった、というのが実際のところなんです。

それを基本に、平成22年度からは創作活動やスポーツ、サポーターの研修会や親睦会などを企画し、活動の充実を図っています。

「土曜のひろば」は予約なしで訪れることができる場なので、子どもが1人も来ないこともあります。そんな日はほかのサポーターと話したり、情報交換したりして過ごすんです。いまの学校現場では、ほかの教員とじっくり話す時間なんてほとんどないですからね。とても貴重な時間です。特に校種の違う教員と話すのがいい経験になるんですよ。私自身、勉強になったと思うことが何度もありました。

そう考えると、「ハートフル土曜のひろば」は、私たちサポーターにとって、日々の忙しさに紛れて見逃していた大切なことに気づかせてくれる場と書いていいかもしれません。次代を担う先生たちにもぜひ参加してもらいたいですね。

## 踏み出す瞬間は人それぞれ 1人ひとりに合った手助けを

毎月第2土曜日に開かれている「ハートフル土曜のひろば」。そこで、自分の趣味や特技を存分に活かして子どもたちを支えてきたのが阿部謙さんだ。

ハートフルサポーターには、発足当初から参加していました。本格的に活動し始めたのは、平成20年度に「ハートフル土曜のひろば」が開設されてからです。今年度は新設校に赴任したこともあって思うように足を運べていないのですが、昨年度までは皆勤賞。子どもたちに勉強を教えたり、けん玉やビリヤードで遊んだり、理想教育財団が各校に提供している「はがき新聞」の制作セット一式を持ち込んで、クリスマスカードや年賀状をつくったりしています。

土曜のひろばのいいところは、自分が個人的に楽しんできた趣味が活かせること。一緒に遊んでいるうちに、子どもたちがエネルギーを発散させていくのが手に取るようにわかるんです。参加するたびにそんな場面に立ち会いますが、中でも印象に残っているのがある男の子との出会い。親子で来所したものの、男の子が車から降りるのを嫌がって、暑い車内に残っていました。私はけん玉を手に車の脇に立ち、「見ててね」と言って、車内にいる男の子に次々と技を披露。すると、男の子が興味を示して恐る恐る車から出てきたんです。そこから、適応指導センター「児童の杜」の1階でカメを見たり遊んだりしながら上の階まで昇り、最後には一緒に卓球までしました。



そんなふうには、訪れた子どもたちも楽しんでくれればいいですよ。私は、どんなお子さんなのか、会った瞬間に特徴を読み取るように接しています。一歩踏み出すタイミングはみんな違いますから。それぞれに合ったきっかけをつくる手助けができればいい。そう考えています。

## 校種の違う小学生との接点 教えてくれた大切なこと

ハートフルサポーターになるきっかけは人それぞれ。サポーター歴4年の小野耕一さんにとって、それは不登校の子どもに言われたあるひと言だった。

教員1年目に担任したクラスに、学校を休みがちな子どもがいました。その子とは普段からよく話していたのですが、あるときこう言われたんです。「先生はほめるのが下手だよ」と。その子の胸の内には、「小学校の先生はもっとほめてくれたのに、中学校の先生はどうしてほめてくれないのか」という思いがあったようです。彼女の言う通り、中学校では「中学生なんだからもっとしっかりしてほしい」という意識が強いせいか、ほめることにより注意することの



ほうが多くなってしまふ。彼女に言われて、そこに気づかされたんです。

サポーターになったのも、そのひと言がきっかけでした。小学校の先生は子どもとどう接しているのかを学びたいと思い、教員2年目に入ったのを機に「ハートフル土曜のひろば」に参加。以来、中間・期末考査前の土曜日に部活動が休みになる機会を利用して、年4回は必ず当番に入っています。実際に参加して思ったのですが、小学校の先生との情報交換からだけではなく、小学生と一緒に活動することで得るものも非常に大きいんですよ。

そうした経験を活かして、担任しているクラスで取り組み始めたことがあるんです。それは、「人のいいところをほめよう」という活動。桜の花をかたどった「ありがとうカード」に、気づいたことを書いて教室の壁に貼っていくんです。初めは照れていた子どもたちも徐々に乗ってきて、貼られる枚数が増えてきました。「春には満開にしようね!」と、子どもたちと話しています。

小野 耕一 さん  
中山中学校教諭

阿部 謙 さん  
泉松陵小学校教諭



### ハートフルサポーター研修会

サポーターの皆さんで、日頃抱えている問題を話し合い、指導・支援の在り方をともに考えていく場として、サポーター研修会を設定しています。不登校状態にある児童生徒へのかかわりはもちろんのこと、学級づくりや学習指導、保護者との対応など、フリートークを交えながら、より良い解決方法をみんなで考える時間となっています。校種を超えたネットワークづくり、情報交換の場と活用しています。お気軽にご参加ください。



### 心安らく 和みの書道体験

墨のにおいに癒され、墨をする時間に没頭し、筆を運ぶときには何とも言えない楽しさを感じる体験活動です。お手本を見ながら、作品づくりに取り組んだり、お手本なしに、自分の思いや1年のめあてを書き残したりしています。大きな紙に、サッと勢いをつけて、美しいひらがなのカーブが書けたとき、言葉にできない爽快感があるようです。参加した子どもたちは、サポーターみんなに認められ、ほめられることで心が温まるようです。



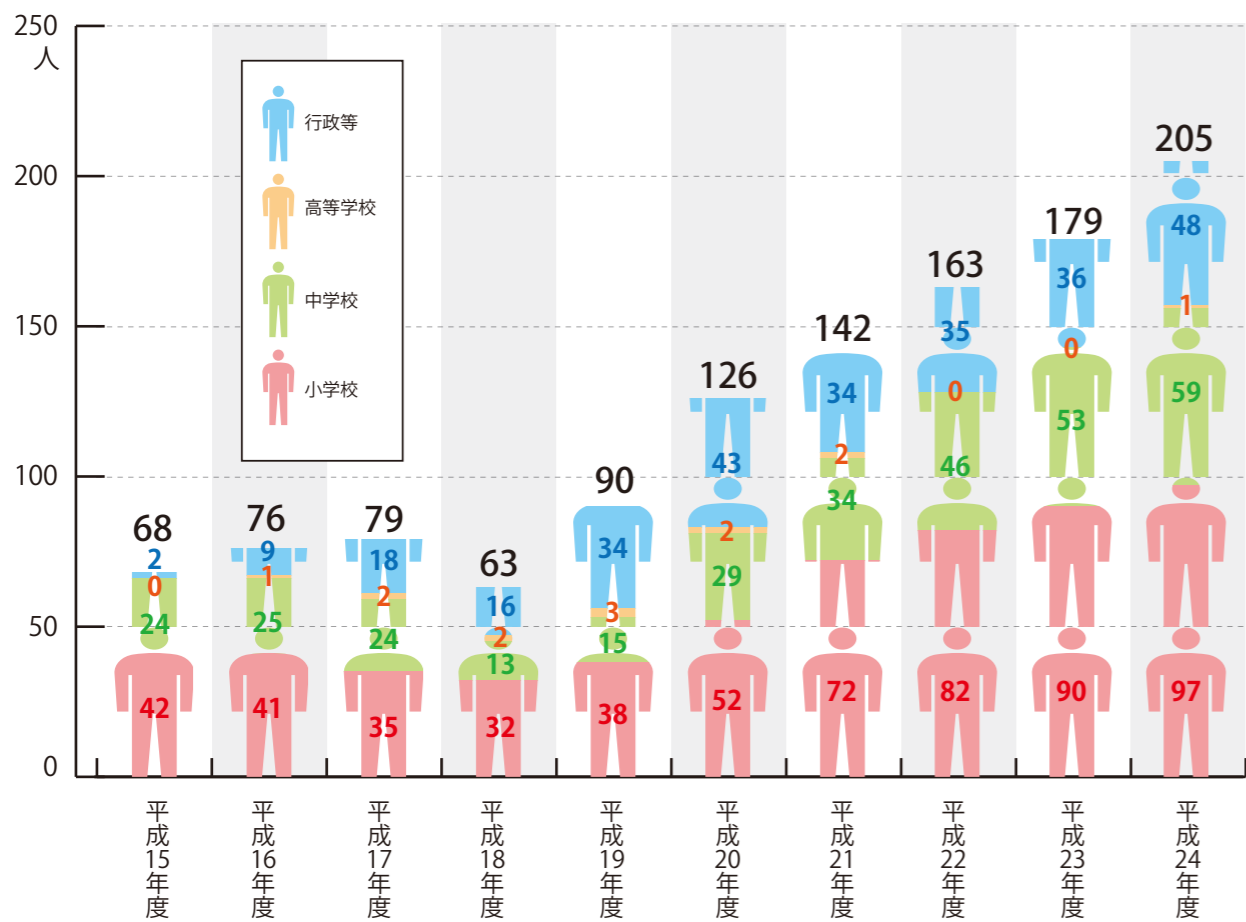
### スポーツ活動「キンボール」

スポーツを通して、人とかかわり合う楽しさを体験してもらいます。キンボールとは、4人1組、3チームでプレーします。チームで協力して、直径1m以上もあるボールを手で飛ばしたり、床に着かないように受けとめたり……。空中に上がった大きなボールをみんなで追いかけるうちに、初対面の子もたちやサポーター同士も、自然に仲良くなるすてきなスポーツ。寒さも忘れて夢中でプレーし、笑顔で健闘を讃え合うひとときです。

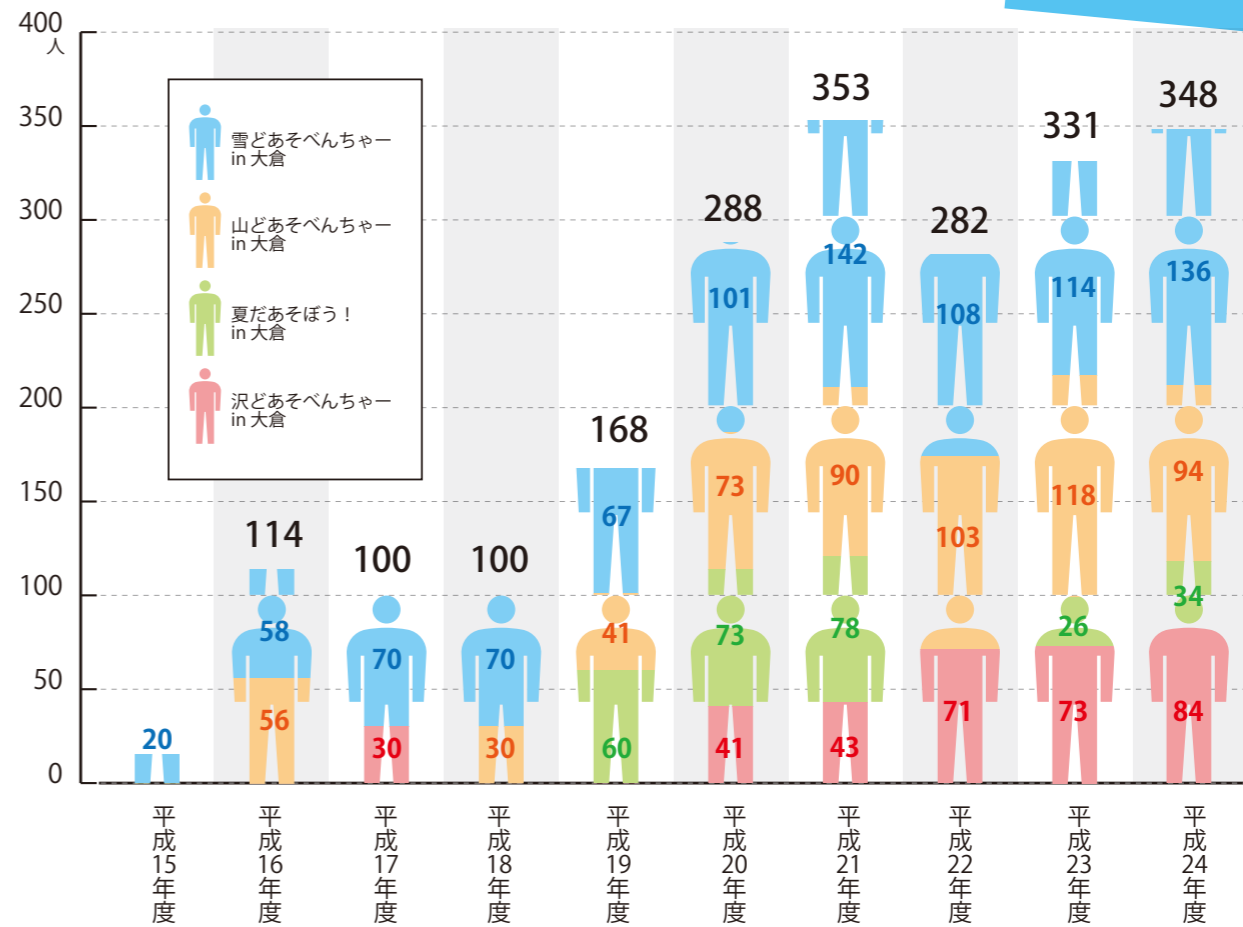


### 楽しいドングリ工作

泉区に自生する樹木の実や小枝などの「自然物」を材料に、ブローチや置物をつくります。ホットボンドでくっつけたり、色をぬったり、つくり方は自由です。子どもたちの創作意欲と豊かな感性には、いつも感心させられます。参加者の中には夢中で完成を目指す大人の姿も……。最後はできあがった作品を鑑賞します。「これカワイイ!」「わあ! 個性的!」。さながら傑作ぞろいの「作品展」。晩秋の「土曜のひろば」は、笑顔とドングリがいっぱいです。



ハートフルサポーターの推移



ハートフルサポーター自然体験活動への参加者

## 自然体験活動の感想

## 沼どあそべんちゃーin大倉

## 【児童生徒】

●楽しかったです。初めて来て、スイカわりや沢遊びがとても心に残りました。沢遊びでは、川とたわむれたり、いろいろな生物を見つたりして、とてもためになりました。ここへ来てよかったです。また、機会があったら、参加したいです。

●カヌー体験をしました。あまりぬれないように頑張るつもりが、いきなりぬれてしまいました。その後、着替えてフリータイムで、ドッジボールをして、みんな強かったので、すごいなあと思いました。スイカわりで2つのスイカを、みんなわることができました。初めてだったし、しっかりと思い出に残すことができたと思います。帰ったらゆっくり寝たいです。本当に楽しかったです。

## 【保護者】

●初めて参加しました。最初は少し不安があつて子どもと来たのですが、親切にカヌーを指導していただいて、子どもたちはいまままでにない笑顔で参加できたのが嬉しく思いました。流しそうめん、スイカわりと、とても楽しく過ごすごができて、私も子どもたちも参加して良かったなあと思います。ありがとうございました。子どもも私も今日の笑顔をお忘れなようにしたいと思います。また機会があればいいと思います。

つもは食べないのに、お替わりをして残さず食べる子どもの姿を見てうれしく思いました。栗拾いは大人も夢中になるほど、集中し楽しかったです。ありがとうございました。

## 【サポーター】

●芋煮がおいしいと喜んでいました。周りの先生方にも声をかけてもらったり、栗をもらったりして笑顔がありました。それに対して、小さな声で「ありがとうございます」とお礼も言っていました。

## 雪どあそべんちゃーin大倉

## 【児童生徒】

●今日はスノーモービルに何回も乗れてとても楽しかったです。お昼の豚汁がおいしかったです。来年も来たいと思いました。

●ぼくはこれで最後の「大倉」になりました。とても楽しく活動できました。ここでの経験を活かし、これからの高校生活を頑張りたいと思います。いままでありがとうとございました。

●そり滑りや雪合戦が楽しかったです。ただ、もう少し遊びたかったです。先生方と雪合戦ができて、とっても楽しかったです。次回も来たいと思いました。

あつたらぜひ参加したいです。

## 【サポーター】

●自分が担任をしているクラスの生徒と学校行事ではできないような体験と一緒にできたことは、私にとっても生徒にとっても次につながるものになったと思います。何より、生徒との距離がぐっと近づいたような気がします。「杜のひろば」の担当の先生方と話す機会にもなりましたし、これをきっかけにして、より学校と「杜のひろば」の関係も密になっていければいいと思います。参加していた児童生徒、保護者、サポーターの皆さんが、みんな自然と笑顔になっていたのが、とても印象的でした。

## 山どあそべんちゃーin大倉

## 【児童生徒】

●栗もたくさん取れて、豚汁もおいしくて、すごく楽しかったです。山歩きでは、転びながらも、山の美しい自然や、きれいな空気をたんのうできました。自分は親と一緒に参加しましたが、普段あまり会話を親としないので、たくさん会話できたのもうれしかったです。

## 【保護者】

●山歩きは、思ったより疲れました。その後の芋煮はとてもおいしかったです。い

## 【保護者】

●ゲームばかりの毎日でしたが、雪の中、広い場所で存分に体を動かしていたので楽しそうでした。昼食をばさんで、午前も午後も外で活動できる場所に参加できて、家族でとても良かったと思います。サポーターの方々も大変親切に接してください、本日は初めての参加でしたが、子どもも周りの方々と打ち解けることができ、グループに入れていただいて笑っていました。ありがとうございました。

●今日はとても楽しい1日になりました。「また来年ある？」と子どもが待ち遠しげに聞いていました。ぜひ、私からも！お世話いただいた色々な皆さん1人ひとりに感謝の気持ちをごみ上げてきます。こんなにお腹がすいて、こんなにご飯がおいしいと感じたのは、子どもも私も久しぶりでした。ありがとうございました。

## 【サポーター】

●父親にそりを押ししてもらったり、「後ろに乗ったほうがいいよ」と教えてもらったりする姿が見られ、父と子の触れ合いもあって、とても良い時間を過ごせていたと思いました。微笑ましい光景を見ることができて、参加して良かったです。



## ハートフルサポーター事業

### 体験活動支援

体験活動支援実行委員会

児童・生徒 | 保護者

#### 【大倉地区での自然体験活動】

- 「沢どあそべんちゃー in 大倉」  
(7月中旬)
- 「夏だ! あそぼう in 大倉」(宿泊体験)
- 「山どあそべんちゃー in 大倉」  
(10月中旬)
- 「雪どあそべんちゃー in 大倉」  
(2月上旬)

大倉ふるさとセンターとの共催

### 教育相談支援

教育相談支援実行委員会

児童・生徒 | 保護者 | 教員

#### 【ハートフル土曜のひろばの開設】

#### (1) 学習支援事業

- 学力に応じた学習支援を行う  
(学習の遅れに応じた支援)

#### (2) 相談事業

- 進路に関する悩みや不安について
- 学校生活に関する悩みや不安について
- 不登校状態にある児童生徒へのかかわり方について

## 学校支援事業

学校訪問による学校復帰や別室対応への支援や不登校対策の校内研修等への支援  
いじめ・不登校対策推進協力校、いじめ・不登校対策研修会等の実施

## 不登校相談事業

保護者や学校(教職員)からの電話相談及び来所相談への対応

## 不登校支援ネットワーク事業

市民団体・民間企業・大学等の協力による学習や職業体験活動等の支援、進路相談会の実施

## ハートフルサポーター事業

教職員ボランティアによる教育相談や自然体験活動等の企画・支援  
(大倉地区での体験活動・「ハートフル土曜のひろば」の開催)

## ボランティア養成・活用事業

学生や市民ボランティアによる「杜のひろば」での活動の補助

## 保護者支援事業

「親の会」(不登校児童生徒の保護者の相談と話し合い・交流の場として)の開催  
(毎月第2・4土曜日、午前10時~12時:児遊の杜)、「出前親の会」(随時)による支援

サポート体制事業

適応指導事業

不登校対策事業「広い目・長い目・多くの目」

# ともにあゆむ

平成26年1月発行

## 仙台市適応指導センター「見遊の杜」

〒981-3131 仙台市泉区七北田字東裏28-1 Tel.022-773-4150 FAX.022-218-8681

## 杜のひろば「宮城野」

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-4-22 (旧榴ヶ岡市民センター) Tel.022-296-7590

## 杜のひろば「八幡」

〒980-0871 仙台市青葉区八幡2-9-1 八幡小学校1階 Tel.022-718-7341

## 杜のひろば「泉」

〒981-3132 仙台市泉区将監3-10-1 将監小学校南校舎2階 Tel.022-372-2441

## 杜のひろば「太白」

〒982-0001 仙台市太白区八本松1-16-1 八本松小学校1階 Tel.022-308-4163

## 杜のひろば「青葉」

〒980-0004 仙台市青葉区宮町1-2-1 東六番丁小学校北校舎3階 Tel.022-222-4270

## 杜のひろば「若林」

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町17-10 南小泉小学校東校舎3階 Tel.022-782-7830

## 宮城教育大学 教育復興支援センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻青葉149 Tel.022-214-3296

### ●歴代ハートフルサポーター会長

- 初代 内藤 恵子 (平成15年度)
- 二代 佐藤 輝子 (平成16年度)
- 三代 狩野 孝彦 (平成17～19年度)
- 四代 三浦 敏光 (平成20～22年度)
- 五代 佐藤 正文 (平成23～24年度)
- 六代 船山 雅和 (平成25年度)

### ●10年のあゆみ「ともにあゆむ」編集委員

- 委員長 安藤 仁 (愛宕中学校 教頭)
- 副委員長 三浦 敏光 (泉松陵小学校 教頭)
- 編集総括 船山 雅和 (大倉小学校 教頭)
- 委員 今野 隆 (長町中学校 教頭)
- 小野寺東史 (八木山南小学校 教頭)
- 有馬 玄康 (中野小学校 教頭)
- 千葉 功 (長町小学校 主幹教諭)
- 伏見 滋 (泉岳少年自然の家 指導係長)
- 五十嵐淑子 (旭丘小学校 教諭)
- 狩野 敏江 (長町南小学校 教諭)
- 木村 直美 (仙台青陵中等教育学校 教諭)
- 井上 康介 (大倉小学校 教諭)
- 根本 光一 (将監中学校 教諭)
- 古田 友紀 (泉松陵小学校 教諭)

### ●編集協力 情報のあんこ

### ●事務局

- 教育相談課長 米澤 通徳
- 教育相談課主幹兼所長 高橋 智男
- 教育相談課指導主事 日下 尚子
- 教育相談課指導主事 遠藤 拓也
- 教育相談課指導主事 及川 悦彰

### 通級児童生徒

#### ●職場体験・職場見学

- ・民間企業で
- ・市民団体で
- ・幼稚園・保育所で
- ・図書館で
- ・動物公園等の公共施設で
- ・ものづくりのできる工房や施設で (陶芸、竹細工等)

#### ●自然体験活動

- ・あそべんちゃー in 大倉 (年3回)
- ・宿泊体験 (年1回)
- 農業体験活動
- ・稲作体験 (田植え、稲刈り)
- ・畑作体験 (野菜づくり)

#### ●パソコン実習

#### ●動物介在活動

#### ●ゲストティーチャーによる特別授業

- 芸術鑑賞会 ・通級児童生徒の保護者にも案内

### 保護者・家族

#### ●子供理解のために

- ・ワーキング、研修会の案内
- ・公開研究会

#### ●親の会

#### ●「ハートフル土曜のひろば」

- ・学習支援 (児童・生徒へ)
- ・教育相談支援 (保護者・教職員へ)

#### ●進路相談会

- ・公立高校 (定時制)、私立高校 (全日制、通信制)、サポート校等による概要説明・個別面談

#### ●学習環境の整備

- ・パソコン、学習教材用ソフト等の提供・整備
- ・学習教材の提供・整備

### 自分づくり 教育の推進

● ネットワークを「広げる」・「深める」活動の推進  
 ○ 自然体験、職場体験・見学活動、ものづくり活動  
 ○ 学校「杜のひろば」併設校・近隣校・地域との連携  
 ○ 人とのかわりや防災教育の充実

## 不登校ネットワーク との連携

### 企業・大学・市民団体等

人とのかわりを大切にして、  
自己肯定感や集団への適応力を高める活動

- 大学 宮城教育大学  
教育復興支援センター
- 企業
- 市民センター
- 幼稚園・保育園
- 市民団体
- 地域の協力者
- 図書館
- 「杜のひろば」併設校・近隣校
- 公共施設

- ボランティア
- ハートフルサポーター
- 学生・市民ボランティア

学ぶことの意義や楽しさが  
実感できる学習支援活動

### 各課・室等との連携

- 特別支援教育課
- 学びの連携推進室
- 生涯学習課
- 教育指導課
- 教育センター
- 発達相談支援センター「アーチル」など

- ・発達障害のある(疑いのある)児童生徒の理解
- ・小1プロブレム、中1ギャップ解消に向けた連携など





発行：宮城教育大学 教育復興支援センター

編集：仙台市適応指導センター「児遊の杜」

Tel.022-773-4150 E-mail. jlyu@sendai-c.ed.jp

